

感染症トピックス

つつが虫病について

■ つつが虫病とは？

つつが虫病は、オリエンチア ツツガムシを起原菌とするリケッチア症で、この病原微生物を保有するツツガムシ（ダニの一種）に刺された後、5～14日の潜伏期後に全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱等を伴って発症します。刺し口は皮膚の柔らかい隠れた部分に多く見られます。治療には、適切な抗菌薬を投与することが極めて重要であり、症状が現れたらできるだけ早く医療機関を受診することが大切です。

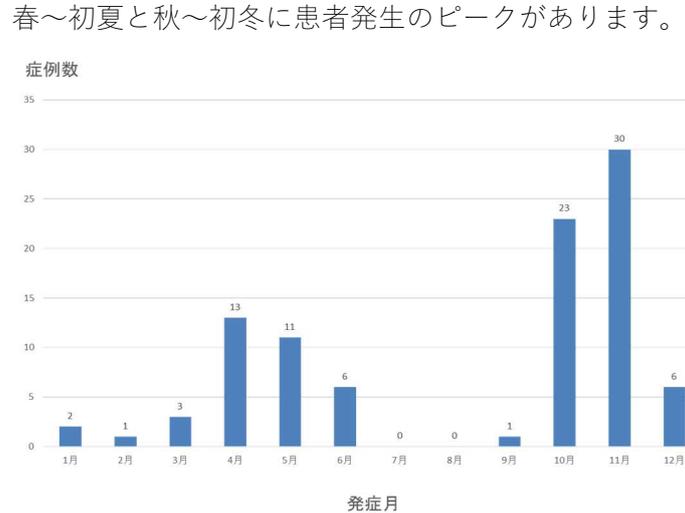
【全国と福島県の比較_2007～2021年】



■ 予防方法

野山、農耕地等では肌の露出をできるだけ避け、野外作業後は、速やかに入浴、着替えをしましょう。また、効果が認められる虫よけスプレー（ディート含有）もありますが、持続時間が限られるため、小まめにスプレーをすることが必要です。

【県内の発症月別症例数_2017～2021年】



■ 福島県内の発生状況

福島県においては、つつが虫病は重要な地域特有の疾患であり、2009年及び2010年の届出数は全国最多でした。2022年第36週(9月5日～9月11日)現在、県内で5名の届出がありました。過去5年間では、2017年30名、2018年21名、2019年21名、2020年13名、2021年17名でした。

【つつが虫病推定感染地域_2017～2021年】

